

report  
1高岡の伝統工芸ブランド、続々と世界へ発信  
国際見本市で、技術とデザイン力を見せる

5月に開催されたニューヨーク国際現代家具見本市「ICFF」に、高岡の銅器関連企業2社が出展した。モメンタムファクトリー・Oriiと、ナガエである。

Oriiは、伝統の着色技術を応用し、多彩な発色や模様を開発。ICFFでは、壁面を飾る部材や花器、時計などを展示し、世界にその発色の美しさを発信した。

金属製品メーカーのナガエは、「naft」などの自社ブランドを出品。デザイナーの感性と技術が融合した商品群を並べた。さらに、ナガエは2012年1月に開催されたニューヨーク・インターナショナル・ギフト・フェア「IGF」にも出展。世界から訪れるバイヤーたちの関心を集めた。



「メゾン・エ・オブジェ」に出展した高岡銅器協同組合の新ブランド「KANAYA」(左)と天野漆器の「DEN」(上)。

同じ1月、フランスで開催された国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」には、天野漆器が新ブランド「DEN」(P9参照)を出展。ガラスと漆の美しい表情が、来場者の目を引いた。同見本市には、銅器メーカーの能作が3年連続で出品しており、同社は、さらに2月、フランクフルトで開催された国際見本市「アンビエンテ」に初出展と意欲的に展開している。

続々と海外展開を繰り返す高岡の伝統工芸に、さらに新しいブランドが誕生した。その名は、「KANAYA」。高岡銅器協同組合の13社が、現代の人々に豊かな時間を届けるブランドづくりをめざし、世界的に活躍する6組のデザイナーとともに3年前から取り組んできたもので、2種類のトレーテーブル(P9参照)とサイドテーブル他を発表。その商品は、「メゾン・エ・オブジェ」にも出品した。新ブランド「KANAYA」は、国の「JAPANブランド育成支援事業」としてスタートし、インターナショナルブランドとしての確立をめざす。

「メゾン・エ・オブジェ」には、高橋高岡市長も現地に出向き、トップセールスを展開した。それぞれの企業の商品の魅力とともに、世界の人々にデザイン工芸都市「TAKAOKA」がひとつのブランドとして認識される日が来ることを期待したい。

【問】高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520

report  
2「金屋町楽市と隈研吾展」  
東京・丸の内で開催

毎年秋に開催されている金屋町楽市では、建築家隈研吾氏のデザインと、高岡のアルミ成型技術のコラボレーションによって生まれた組立式什器「ポリゴニウム」が使用されている(P8参照)。8月25日から31日まで、東京の丸の内ビルディング1階のマルキューブにおいて、このポリゴニウムの製品提案とともに、北陸を中心とした作家の作品の展示・販売を行う「金屋町楽市と隈研吾展ーポリゴニウム・ゾーン・ミュージアムの実験ー」が開催された。

トランプを三角形に積み上げていくゲームからヒントを得たというポリゴニウムは、アルミ押し出し成型によってつくられ、無限に拡張できる。

期間中は、丸ビル周辺に働く女性だけでなく、東京駅周辺を訪れた人々の注目を集め、作品を鑑賞する人、買い求める人などにぎわった。



自在な形でアピールするポリゴニウム

【問】高岡市商業観光課 TEL.0766-20-1591

report  
3人間国宝・桂盛仁氏を招き  
伝統工芸技術・知識を習得

高岡市では、平成23年度文化財とものづくりのまち活性化事業の一環として「伝統工芸修理技術者養成事業」を実施。重要無形文化財保持者(彫金)の桂盛仁氏(東京)による講演



講演会で作品について語る桂氏

会・講習会等を行った。この事業は、文化財修復分野での技術・知識を習得し、技術者の養成を目指すもの。

10月8日の講演会では、桂氏本人の作品を紹介しながら制作意図や技術を解説。9日・10日は、参加者を対象とした講習会を実施した。桂氏は、実際に金具を制作し自らの彫金技術を伝えた。



熱心に技術を学ぶ参加者の皆さん

さらに、地元講師により、道具の制作から仕上げまでの実習を8回にわたり実施。3月には、作品の展示会が開催され、それぞれの成果を披露した。

【問】高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520